

令和7年度 第1回櫛引地域振興懇談会 会議録

- 1 日 時：令和7年9月12日(金) 14:00～16:00
- 2 場 所：櫛引庁舎 第1会議室
- 3 出席者：委員 高橋治郎、伊藤司、三浦和彦、三浦雅浩、安野良明、佐藤正幸、
上野由部、秋山彌里、清和ふみ子、本間与一、宮城妙、上野祐希、
叶野由佳、渡会美香
(欠席委員) 五十嵐誠一
本所 地域振興課長 菅原泰行、地域振興課専門員 北山幸平、
地域振興課専門員 下本敬己
櫛引庁舎 支所長 伊藤幸、総務企画課長 遠藤直樹、
市民福祉課長 齋藤芳、産業建設課長 大宮將義、
総務企画課長補佐(兼)まちづくり企画調整主査 菅原勝善
市民福祉課主査 長南徹、産業建設課長補佐 佐藤隆一
総務企画課未来事業推進員 渡部綾
- 4 会議次第
[委嘱状交付] 委員全員に交付
 1. 開 会
 2. あいさつ 伊藤支所長
 3. 委員・職員紹介(自己紹介)
 4. 会長・副会長の選出
 5. 説明・報 告
 - (1) 9月3日の大雨災害及びクマの食害について
 - (2) 前回までの櫛引地域振興懇談会での検討事項への対応について
 6. 懇 談
 - (1) 過疎計画の改定について(地域振興課)
 - (2) 櫛引地域まちづくり未来事業について(櫛引庁舎)
・馬渡桜づつみ周辺の活用について
 - (3) その他
 7. その他
 - (1) 地域公共交通計画の改定について(地域振興課)
 8. 閉 会
- 5 会議資料
説明・報告
 - (1) 9月3日の大雨災害について 他[当日配布]
 - (2) 櫛引地域振興懇談会 令和6年度2回目意見対応[資料1]懇談
 - (1) 第2次鶴岡市過疎地域持続的発展計画の概要(案)[資料2]
 - (2) 櫛引地域まちづくり未来事業の取組状況について[資料3]
・上流域整備メニュー案(馬渡、櫛引やすらぎ公園、櫛引総合運動公園)[資料4]その他
 - (1) 次期鶴岡市地域公共交通計画策定について[資料5]

5 説明・報告

- (1) 9月3日の大雨災害及びクマの食害について（産業建設課長説明）
- (2) 前回までの櫛引地域振興懇談会での検討事項への対応について（支所長説明）

委員より意見・質問

【B委員】

熊はまだ駆除されていないということだが、冬眠前のこれからの時期はまた頻繁に出てくると思われる。周辺の住民も外を出歩けなくなる。今後の対策は何か考えているのか。人的被害が起きる前に、何か対策を立てておいたほうがいいと思う。

【産業建設課長】

例年の3倍にのぼる熊の食害等の報告事例がある。今後、10月にかけて増加するのではないと思うので、危機感を持って対応にあたりたいと考えている。猟友会、農林水産部とも色々と検討しているが、夜間に熊を見つけたとしても、銃を撃ってはいけない等、熊の捕獲に関しては法律の縛りがある。これから法律が変わるということもあるが、今現在できるものは、食害の被害があったところに箱罠を設置する等、どちらかというディフェンス的な取り組みになる。熊が頻繁に出てくる侵入路ををしっかりと押さえつつ、こちらにあるセンサーカメラ等で、しっかり熊の行動を把握しながら、次の手を打つようにしたい。例えば、進入路を防ぐ等。それに関しても、地区住民の皆さまへの周知、理解がないとできないが、こちらで考えられる手立てを、区長さん、住民の皆さまと考えながら、対応していきたいと考えている。

【支所長】

補足すると、出没情報を見ると、赤川の東側から土手を越えて熊が来ている状態なので、赤川の土手の草刈りを行う。具体的に熊の動向は掴めていないが、おそらく、河川敷の藪や堰、そういったブッシュみみたいなところに、潜んでいるのではないと思われる。日中はそこに潜んでいて、夜になると出てきて、赤川を越えて東荒屋の梨を食べに行っていると思われる。まず草刈りをする事で、熊が潜むところを排除するというのが、今後の前向きな取り組みになる。産業建設課長が話した通り、法律上できないもののがかなりあるので、今の現状では草刈り作業を行ってもらう。ただ、B委員がおっしゃった通り、この状況はとても危険な状況だと思う。ここ3、4年の中でも発生数がものすごく多いので、人的被害が出てもおかしくない状況だと思う。そうすると、日中も安心して出歩けないとなると、現状我々としては、パトロールをするしかないと考えている。あと、箱罠にかかってしまえば、駆除はそのまま猟友会の方にやってもらえるので、その方向でいたいと思うが、もっと被害が出るようであれば、もう少し考えないといけないと思う。これは県への要望になるかと思うが、例えば、赤川の河川敷に箱罠を設置することも方法としてはあるが、河川敷の占用許可を取るのは、ものすごくハードルが高く、市長や山形県にお願いして取り組んでいくことになると思う。今日の話し合いも踏まえて、住民の方々がこの発生事案に対して懸念をしているということはよくわかったので、本当にありがとうございます。

【C委員】

草刈の件だが、赤川の内川の木も相当鬱蒼としている。一級河川なので、国から指導を受けながらやっていかないといけないと思うが、以前、全て伐採したことがある。それによって様々な効果があった。今問題になっている熊もそうだが、赤川の中州に、大量のハクビシンが生息している。それが夜な夜な出てきて動き回っているが、東側の黒川方面にはあまりこない。黒川地域でもリンゴを生産している方もいるので、その辺りを狙ってやってくる。だから西側の果樹関係は、熊だけではなく、そういった小動物も相当やって来ていると思う。なので、赤川の河川敷の木の伐採などを少し考えてもらいたい。少し長い目で見ないといけないかもしれないが、やはり、市、県、国というふうに動かさないとで

きないのではないかと思います。

また、今現在、熊の捕獲は年に何頭という条件はあるのか。

【産業建設課長】

市全体での捕獲頭数を県に申請しているが、ここで今すぐにはわからない。

【C委員】

以前、朝日にいたとき、朝日では結構捕獲していた。やはり捕獲の頭数が決められているので、制限以内ということになるが、10年前ぐらいには、朝日地域と温海地域は出る数が違ったので結構捕獲していた。櫛引地域は出ても数頭の話だったが、これだけ多くなってきた。最近、法律も変わってはきているが、最終的には地方自治体の責任に任せられた形だと思うので、先ほどB委員がおっしゃった通り、人的被害が出てからでは遅いので、よろしくお願ひしたいと思う。

【A委員】

具体的に被害額はどれぐらいで把握してるのか、それから熊は何頭出ているのか。その辺を専門家からの調査等は行っているのか。

【産業建設課長】

被害額は、今積算している資料が無いので即答はできない。専門家からの意見というところでは、市の農林水産部に麻醉銃を使える推進員がいるので、農林水産部、そして色々経験のある猟友会の方から助言をいただいている。例えば、箱罠をこういうところに設置した方がいいというようなノウハウがあるので、やはり市、農林水産部、そして猟友会と連携してやっている状況。

【A委員】

こんなに長い期間効果が現れないというのは、課題が見えていないのではないかと、把握していないのではないかと気がしてしまう。果樹の場合、熊が入ってしまうと、枝折れするというふうに聞いている。そうすると、果樹の生産が今年だけの問題ではなく、長年続くということも懸念されるので、その辺の調査もしっかりやるべきではないかなと感じる。

【支所長】

今回出沒している熊は、猟友会の方の実体験からくる話だとは思いますが、少なくとも我々よりは説得力もあり、信憑性のある話だと思うが、3年ぐらい前から出沒している熊と同じ個体で、罠とか人とか光だとか、そういった人が住んでるところに耐性ができている熊のこと。谷定も鶴岡地域ではあるが、櫛引猟友会の守備範囲なので、先日箱罠を設置したら、すぐその罠にかかって、そこで駆除をしている。その熊の胃袋を調べると、木の実などしか入っていないくて、手練れではない熊がかかったようだった。櫛引に出沒している熊は、7月下旬からずっと箱罠を設置しているが、それが罠だということをわかってしまっているようだ。なので、現状を見るとなかなか捕獲できない状況にあり、先ほどから産業建設課長言ってるような対応しか今のところできない状況にある。一方で、こんなことをやっていたら枝折れも起きてるので、対策としては、電気柵の設置というのが効果的なのだが、これは農業者が判断することで、補助率も2分の1しかない。すでに少々東荒屋の方は何回も熊からの襲撃を受け、防風ネットも破かれているようですし、そこにこれから電気柵を設置することは難しいと思う。なので、私どもとしては、詳しい調査も検討しますし、B委員がおっしゃったような人的被害だけは何とか防ぎたいと思うので、日中のパトロールも検討していきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

6 懇談

(1) 過疎計画の改定について（地域振興課説明）

委員より意見・質問

【C委員】

過疎地域の捉え方だが、藤島地域、朝日地域、というような感じで今捉えていると思うが、例えば、櫛引の中でも黒川上、黒川中、黒川下というような地区がある。その中でも、極端にここの地区は人口が減ってしまっているというところがある。そういった範囲を狭めた視点でも考えないといけないと思う。

【地域振興課専門員】

現在の計画は、旧市町村地域ごとになっている。確かにそういった見方もあると思ったので、参考にさせていただいて、今後2次計画でどのように記載するかも検討したいと思う。

【E委員】

デジタル田園都市構想総合戦略と記載があるが、やはり櫛引や朝日などの過疎化が進んでいるような郊外エリアだと、インフラとしての住みにくさみたいなものが結構目立ってきている状況かなと感じている。公共交通機関のことが記載してあるが、車の運転ができないと生活できないとか、あとは旅行者に案内するにしても、雨避け日除けも無いようなバス停に、十何分も歩いていかないといけない、何時間も後にバスが来るっていう状況は、なかなか案内しにくかったりとか、やはり利用しにくさがあると思う。郊外エリアこそ、デジタルの力で、中心市街地との差を縮めていくような何か施策みたいなものを希望したいと思う。また、インフラとしてのコンビニがなかったり、デジタルに弱い高齢者の方もいらっしゃると思うので、その部分をフォローするような感じのソーシャルワーカー的な動きをする行政の方がいるといいのかなと思ったりしていた。

あともう1点で、地域の中の中心市街地計画がなかなか見えてこないような気がするもので、櫛引の中心市街地、核となる場所の計画のようなものを、住民と一緒に話す必要があるのかなと思っている。

【地域振興課専門員】

インフラ整備、交通網の事についても、この後また情報共有させていただくが、地域公共交通計画を策定する予定なので、それまでに市民アンケートも行う予定で、皆様からの様々な意見を頂戴しながら、こういった方法が考えられるか、検討していきたいと考えている。

【支所長】

どのエリアが中心市街地になるのかということ、多分この櫛引庁舎周辺になると思うが、藤島と違って都市計画っていうものは無い状態。E委員の考えだと、鶴岡の中心市街地まで行かなくても、事足りるような、色々な機能が集中した方がいいのか。

【E委員】

やはり交通機関が充実していないっていうのも理由にあるが、病院に行くとか、買い物をするとか、そこに行ったらそのエリアで用が足せるというようなエリアがあるといいのかなと思う。その辺の計画があると、市民と行政が一体になってまちづくりが進んでいくのではないかと思ったので、お話をさせていただいた。

【C委員】

今の話と重なると思うが、例えば観光のことから言うと、空港から王祇会館に来てもら

う時に、何かイベント的なものがあるときは、大体その情報をいらっしゃる方が掴んで自分たちで来る。ところが、平日で何もないときにいらっしゃるお客様もごくわずかだがいる。結構問い合わせの電話がかかってきて「交通機関はありますか」と聞かれた時に「あります」とは言えない状況にある。あと、日常的に頻繁にお客さんが出入りするところ、例えばお年寄りが病院に行くときなど、車を運転できなくなってしまったら、代わりになる手段が、もう少し仕組みが見えるといいのかなと思う。いわゆるインフラとの繋がりですよね。今は個人的に回る方も結構多い時代なので、電車を利用して来た時など、二次的交通手段をこれから発展させて、観光とも繋がっていくと有り難いと思う。

【総務企画課長】

東地域では生活支援ということで、デマンド交通「くしびつき」を、協議会を立ち上げて運行している。予約制で乗れるタクシーで、発着時間は決まっているが、行けるところが十数ヶ所あり、そういった仕組みは東地区の方は入っている。それは、東地区の路線バスが廃止になっているからできる制度であって、西地区は路線バスが走っているので、なかなかその仕組みも入れられないという、制度上の縛りもある。東地区の方はそういった生活支援を行っているが、それから観光に繋げるのは難しい。陸運局から、普段の生活の足として許可をもらっていて、登録制、予約制となっているので、登録していない観光客がいきなり来てその制度を使えるかという、なかなかその仕組みを作るのは難しい。本所の方では、観光関係のところでは公共交通について、そういった動きは何かありますか。

【地域振興課長】

観光については、観光タクシーも観光物産課で対応しているが、やはり非常に予約率も高く、昨年度の1.5倍というような話も聞いている。議会の方でも質問は受けたが、その辺りも含めて、生活交通、それから観光の交通も併せて、検討していくというような答弁をしている。

【総務企画課長】

地域庁舎では地域振興計画を策定しているが、この計画はあくまで地域の特色を生かした、どちらかというとソフト面の部分が多く、中心市街地の計画となるとハード面になる。なかなか庁舎の中で都市計画的な整備計画を立てるのは難しい。市全体で、旧町村単位の核となる地域のインフラ的な整備計画を立てましょうという流れになっていけば可能性は出てくるが、そのような動きはない。委員のこの意見については関係部署にお繋ぎする。

【A委員】

今日の会議が有意義であると思っているが、10月に選挙があるわけで、もし市長が変わった場合、今、いろいろ話し合っ出された意見がどのくらい反映されるのか。市長が変わったら全部変わってしまうわけではないと思うが、その辺はどういうふうに考えているのか。10月に選挙があるという事をわかりながら、なぜ今の時期に行うのか。

【総務企画課長】

例年、8月～9月の時期に開催している。10月になると来年度の予算要求の編成時期に入りますので、その前に予算要求で何か反映できるもの、庁舎だと主に未来事業が予算要求するものになりますが、そういったもののアイディアやヒントになればということで、この時期に開催している。選挙の関係ですぐ変わるということはないと思う。

【A委員】

当然、すぐ変わるとは思っていないが、もし市長が変わった場合、その市長の方針が出てくる。誰になるかわからないが、この櫛引の地域振興計画は5年計画の中でやっている。それが大きく変わることは多分ないと思うが、新たなものというのはなかなか今の段階で打ち出せないのではないかなというふうに思う。こういった要望がありましたよというだけで終わる形になるのかなという気がする。やはりそれはインパクトのない、力のないこ

とになりかねないのではないかなと思う。

【支所長】

まず、この資料3に記載されている事業の中で、例えば櫛引のフルーツの振興事業は、市長がどなたになろうとも、櫛引といえばフルーツなので、ここで約束できるわけではないが、この振興策は私としては継続して要求していく。それから、今日この後に各課長に話をしてもらいますが、働き方改革などの観点から、効果が上がらない、成果が見えないような事業は、取り止めるものは取り止めて、逆に足りないもの、不足を補わないといけないものは取り組んでいきたいと思うので、そういった議論も今日したいと思っていた。櫛引地域振興計画は、市長がどなたになっても、この計画がまず尊重されて、もし市長の意向と全然違うのであれば、これをもう一度再調整して、それはもちろん皆さんにまた聞いた上で作り直すので、そこは齟齬は無いと思う。ただ、開催のタイミングについては、今回選挙のこともあったので、慎重にすべきだったなというふうに思ったので、そこは気をつけていきたい。

- (2) 櫛引地域まちづくり未来事業について（各担当課長説明）
・馬渡桜づつみ周辺の活用について（産業建設課長説明）

委員より意見・質問

【A委員】

観光部門で、鶴岡市南部エリア観光周遊促進事業に取り組んでいる最中だが、なかなかここだけで物事を進めていくというのは、様々な課題が出てくる。お隣の朝日地域と、もしくは南部エリアでやろうとすると、色々な連携をとらないといけない。ところが、櫛引、朝日、金峯と、それぞれの観光協会で成り立っているという形で、なかなか連携を取りにくい。その相互の交流も、なかなか難しいというのが、今鶴岡における現状なんじゃないかと思う。市全体から見ても、観光協会は10～13ほどあると思うが、それぞれ個々で完結していて、横の繋がりがあまりない気がする。先ほど交通の便の話、観光客を運ぶいろんな方法についても話していたが、例えば加茂水族館は観光ルートとしてタクシーで回れる。こちらのエリアにも、例えば櫛引、湯殿山を一体とした、同じような形でそのルートができるのかどうか。そしてそれはタクシーでないといけないのか。もしくはライドシェアみたいな形でやれるのか。そういう方策もいろいろ考えられると思うが、このエリアだけではなく、もう一回り広げたエリアでの観光ルートの考え方をいろいろ模索していないといけないと思っているが、それに対するこの地域の進め方はどうあるべきか示していただけると大変有難い。

【産業建設課長】

南部観光周遊に関しての今後どのようにあるべきかというご質問かと思う。今までは、コロナ禍でいわゆるマイクロツーリズム的な考えが強かったものを、昨年、専門家の意見により、やはりこの地域には、体験型や自然体験というアドベンチャーツーリズムが、外国人に向けても喜んでもらえるのではないかと、各観光協会でも今後活かしていきたいと、昨年度の事業は終了したところです。その後継として今年度取り組んできたのは、鶴岡市の一大スポットとして、一番多く来訪者が来ていただいている、羽黒の出羽三山、生まれ変わりの旅といったストーリー、やはり出羽三山を中核として、そこからいかに朝日、櫛引、黄金エリアに周遊して寄ってもらうか、というところを主に考えて観光協会の皆さんと勉強会をしたところです。体制的なところは今回は触れないが、やはり各観光協会では、いかに地域にお金を落としてもらうか。観光で来た方々が、例えば出羽三山に寄

ったとしても、上手く櫛引エリアに足を運んで帰っていただくというような、体験コンテンツの実証事業を今年度11月頃に実施したいと考えている。そういうことで、A委員とはいろいろと相談をしておりますが、やはり櫛引には大変良い観光資源が揃っておりますので、うまく取り込めるような、周遊の流れ、そして、体験コンテンツが提供できるような事業者の育成に向けて取り組んでいきたいというふうに考えている。

【A委員】

その辺を具体的に進めるのはなかなか大変そうだ。課題がいくつも出てきて、お互いに意思疎通しないと動きが取れないという形になっているのが現状。例えば、櫛引だけの問題ではなく、広い範囲、南部エリアでの色々な交流というものも、かなり密にしていけないと物事進まないという現状のようなので、ぜひよろしくお願ひしたいと思う。

【C委員】

馬渡の桜並木の件だが、桜の木が非常に大きいということと、老木化してきているようだ。とても大きいので、木の幅が結構離れていてもすごいボリュームがある。色も白っぽくなく赤に近い。そこを写真家の皆さんは狙っているようだ。ところが土手の方の新しい桜並木は、木と木の間に結構狭くなっていて、ちょうどあそこの下の方に柿の木の畑がある。実は赤川の川風が、柿の木にとってとても重要になっている。桜の木がなかった時代に、柿の木に虫を湧かさない力にもなっていた。植えるにしてもあれだけ密集してしまうと風が通らなくなると同時に、1本1本の木の育ちが逆に阻害されてしまう部分もある。馬渡の桜並木の管理はどこでやるのか。以前は管理する団体があったはず。例えば伐採するにしても、誰が責任を持って伐採するのかなどと思ってるが、何か問題が起きる前に何かに手立てがあれば教えていただきたい。

【産業建設課長補佐】

管理については、鶴岡の方に桜の会というものがあまして、そちらの方の助言等いただきながら、庁舎で剪定等をしている。

【支所長】

柿の生育に影響が出るという話は初めて聞いたのだが。

【C委員】

生育もそうだが、風が直接当たることによって、日中と夜の寒暖の差が大きくなる。そうすると、柿そのものの大きさとか、甘味とかが違ってくる。あと虫については、やはり桜の木がなかった時代の方が虫は付きにくかった。どうしても桜の木は虫を呼んでしまう。素人判断だが、そういったところじゃないかなというふうに思う。我が家の柿の木もその場所にあるし、それ以上にもっとたくさんの農家さんがあそこ結構広く使っている。特に苦情がなければまた別で、私が懸念するようなことがそんなに起きていないということであればそれはそれでいい。

(3) その他

委員より意見・質問

【D委員】

私は黒川下区ですが、昨年、雷で道路の消雪装置が壊れて、その年の中では修繕は出来ないと言われ、来年するってということで約束していたが、今度、その大きな予算が三千刈にってしまったので、今年度は出来ないという話だった。書面で通達があったが、最初

にしていた約束を破って、そういうふうなことをするのか、私は理解ができない。黒川のバスが無くなったうえに、その消雪の修繕はやらないということは、私はとても理解できないので、もしここで取り上げてもらえなかったら、私は本所に行っているいろいろとお話をしようと思っていた。

【産業建設課長】

個別の資料が今手元に無いので、後程本所の土木課の方と相談させていただく。

7 その他

(1) 地域公共交通計画の改定について（地域振興課説明）

委員より意見・質問 なし

【総務企画課長】

以上を持ちまして、今年度第1回目の櫛引地域振興懇談会を閉会させていただきます。次回は3月頃を予定しておりますので、またご案内をお送りいたしますので、ご出席をよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

以 上